



# 西内野 コミュニティだより

10号

発行/西内野コミュニティ協議会 編集委員 2012.3

西内野の絆

## もちつき大会

ご参加の皆さん、お手伝いの皆さん  
ありがとうございました



もちつき大会も早いもので4回目となった。手作りが特徴の西内野もちつき大会。

食べるだけではなく、もちつき体験を楽しんだり、お手伝いボランティアの輪も広がってきた。

今まで地域に育てられるばかりの中学生たちは、すっかり頼もしくなりお手伝いとして貢献し奮闘していた。

それを見習った小学生たちは、受付の手伝い。普段地域と関わる機会の少ない経験豊かな年配の方もはりきって手を貸してくださった。

参加人数は700人を数えた。「NSTテレビ」も取材に来た。このあたけ交流と文化の伝統を来年もつなげていきたい。

## 参加者コメント

西内野小学校5年 渡辺 楓さん

私はもちつき大会の受付をしました。最初はのり気ではなかったけど、人がたくさんきた時に、みんなで協力したら、たくさんの方がならずに受付をすることができました。おわたった後のおもちもすごくおいしくて、やっぱり、お手伝いをして良かったなと思いました。



内野中学校2年 相川 心平さん

僕は、西内野小学校で行われたもちつき大会に参加しました。会場には、同級生もいたので自然に溶け込みました。きねを使って餅をつくのは意外と大変でした。

2人で交互にしていたときには、きねどうしがぶつかってしまっって焦りました。普段はなかなか地域の方々と関わる事がなかったのですがこのような形でふれあうことができてよかったです。



## 初めてのお手伝い

五十嵐中島 清水タキ子さん

ペタン、ペタンの音が田舎生まれの私に子どもの頃より続いている年末に家族で作る餅つきを思い出させ胸がいっぱいになりました。丸めた餅にきな粉を付けるお手伝いをし、懐かしい人とも再会出来、とても楽しい一日でした。餅つき最高です。来年も皆様もぜひご参加下さい。



## 地域のもちつきに参加して

西新町 加藤 清美さん

餅つきは、子どもの頃家族の年中行事でもあり子どもたちにとっては一番の楽しみでもあり、大人の様子を見たり、食べたり、そして少し大きくなると手伝ったりと楽しい思い出です。

地域のもちつきに参加して、四十年ぶりのもちつき、申し込んで出来るか不安な気持ちで体育館に行くと、杵と臼のそばに行くこと記憶がいっせいに甦ってゆき、身体が自然に動いていました。身体で覚えた事は時間や年数を重ねていっても、忘れていなかった事に自分の身体に感動しました。

ありがとうございました。





### 初演奏会にむけて

西内野吹奏楽団 団長  
納谷 伸司

西内野コミュニティ協議会関係者の皆様、区役所関係者の皆様、地域の皆様、各方面からの手厚い応援を頂き心から有難く厚く御礼申し上げます。団員もそれらの事を身にしみて承知をしており、月二回の合同練習日には本当に張り切って颯爽と練習会場入りしております。合同練習がスタートして一年に満たないですが、現在十四種類の楽譜を配布済みです。毎回団員はしっかりとさらってきてくれます。奏功し最近精度が上がってきており喜んでおります。さらに一同精進し頑張りたいと思います。順調に進みますと、六月頃には皆様に披露できるのではと考えております。その際はどうか足をお運び下さいます様お待ち致しております。



### なごやかな高齢者日帰りふれ合い旅行

秋たけなわの昨年10月25日、西内野コミュニティ協福社部のはじめての事業、高齢者のための慰安旅行が開催されました。35名の方が参加し、楽しくふれ合うことができました。

西コミセンを10時に出発、角田の熊野神社に参拝し、シーサイドラインの風景を楽しみながら、海華亭かわいいへ。そこで、「在宅ケアセンターゆうばえ」の渡辺裕美子さんから講話、続いて民生委員から活動についておはなしがありました。その後、和やかに懇談しながら、おいしい昼食をいただきました。久し振りに顔を合わせた方、初めてお会いした方など、皆さんの話ははずみ、そのうち歌が出、ダンスを踊られたり、和気あいあいのうちに時間が過ぎました。最近西内野に引越された方が、皆さんから親切におつき合いして頂き喜んでいきますとの言葉にとっても嬉しくなりました。

今回のふれ合い旅行は、高齢者がお互いに助け合い、少しでも元気で幸せに過ごせる地域の一助になれたのではないかと思います。



### もちつき大会によせて

### 歴史がながることの重み

内野中学校長  
中山 真

六〇〇名を超える地域の人たちが西内野小学校の体育館に集まりました。それもすべて笑顔で皆さんの尊い場に参加させて頂き感謝の気持ちで一杯です。

ところで、餅つきの白がどのような歴史を辿って、今日ここにあるのか興味があります。古俣正樹様、猪爪衛様からお借りした大切な三器の白です。中には、二〇〇年以上前の江戸時代から使われていたものがあるとのこと、そのお話を聞いただけでも驚きです。

昭和四〇年代、機械の餅つき器の発明・普及、その後、餅の商品化により、家庭での年中行事としての餅つきもなくなり、蔵の片隅にひっそりとしてしまわれた時代もあったそうです。

今、四〇年以上の年月を超え、西内野コミュニティ協議会の主催による餅つき大会で大切な白が復活しました。その餅つきも四回目ということ、四〇年の空白はあったとしても地域の歴史がつながったと思っております。一層の尊さを感じます。ご尽力された皆様に敬意を表します。





# 夜間防犯

## パトロール

西内野地区区内の夜間防犯パトロール実施については、今年度で5年連続実施している西内野コミュニティ協議会主催の重要な行事に定着しております。西内野小学校区内を各自治会・町内会等から42名のパトロール員を選出頂き、9月7日から11月6日までの2ヶ月間、延べ18回のパトロールを実施しました。

午後7時30分～午後9時まで、3ブロック  
 ①内野上新町・新中浜、②内野平和台・上原団地・五十嵐中島・広通江団地の一部、③第七団地・西新町・ひまわり団地・広通江団地の一部・西が丘駅周辺)の区域を、週2回7名の班編成として、地域の安全・安心な街の環境保全に夜間防犯パトロールを実施しました。

今年も巡回中に事件・事故も無く無事終了する事が出来ました事を感謝申し上げます、また来年も有効的なパトロールを実施すべく検討しておりますので、今後の実施に向けてのご提案・ご意見をお寄せ頂きたくお願いいたします。



### 平成23年度 西内野地区自主防災訓練を実施

毎年恒例事業として自主防災訓練を10月30日(日)午前9時から実施いたしました。この訓練は、西内野地区に居住する住民各人が防災意識の普及と高揚並びに防災資材・機材の知識及び取扱い等の取得のために、西消防署員の協力により防災訓練を実施いたしましたところ、全体で約300人の参加があり住民の防災意識の高さと感謝しております。

なお、今年度初めて「新潟市ジュニアレスキュー隊育成講習会」を受講して認定された内野中学校生徒五名の紹介をすることができました。

このジュニアレスキュー隊とは、災害時要援護者の救助・避難誘導をはじめとした地域での防災活動に於いて活躍が期待される中高生を対象に、防災意識と技術を身に付け地域防災力の向上を図ることを目的に新潟市主催で毎年1回講習会が開催されております。

この地域では大事な人材であり、来年も内野中学校に依頼して一人でも多くの生徒派遣をお願いしたいと考えております。



### ジュニアレスキュー隊員

内野中学校2年 阿部 隼也

煙が充満した部屋を歩く体験をした。目の前や周りが見えなくてとても怖かったです。レスキュー講習会で学んだ事は毛布と長くて堅い棒でタンカができる事です。自分の周りに具合の悪くなった人がいたら、講習会で学んだ事を活かしたいです。

内野中学校2年 笠原 岳志

ジュニアレスキュー講習会に参加し思った事は、地域の方とのつながりです。講習会では、人工呼吸とAEDの使い方を学びました。昨年の東日本大震災のような時、僕たち中高生が大人の力となり、地域の役に立っていかなくてはいけないと感じました。僕たちも「守られる側」ではなく、自分の身や他人を守る側だという事を自覚し、責任感のある行動をとっていきたいと思います。

内野中学校2年 笹川 雷杏

ジュニアレスキューで学んだことは、いざというときに自分が地域に貢献できる力を学びました。それは災害時での応急処置や緊急時のAEDのやり方など進んで行動するということを学びました。今回の講習会では、さまざまな事を学びました。その教えてもらった事を忘れずに、どんな事があっても冷静に落ち着いて行動できるようにしたいです。

### 西消防署の新庁舎について

政令指定都市移行に伴い、西消防署の新庁舎が完成し、去る2月4日には披露式が行われ、また、4日、5日と一般見学会が開催されました。

西消防署にははしご車や救急車など消防車両7台が配備され、日勤者と交替制勤務者の50名が勤務しています。

西区の安心、安全な暮らしを守る消防活動の拠点として運用が開始されました。





## パパママが育てる！ 「子どものやる気」

(パパカアップ講座 第3弾)

コミセン大ホールにて3月17日(土)に赤坂真二先生のパパママが育てる「子どものやる気」と題した講演が開かれました。会場は地元の参加者を中心に60名でありました。お話はパパママがいかにして子どもの「やる気」・元気を起こさせるか？参加者同士のちょっとした活動も取り入れながら、わかりやすくお話いただきました。参加者からは、今すぐに実践したい、もっと聴きたかった、あっという間の2時間だった、などの声が多数聞こえてきました。



地震のあった三月十一日は小学校の屋上に避難し津波を目撃した。沖からやってきた波がどんどん町をのみ込む「本当にすごかったです。映画みたいな感じで……」屋上に避難していた被災者からは悲鳴があがったという「地獄ですよ、とにかく地獄だ、それは見た者じゃなきゃわからない。」石巻で救出された人を搬送できる病院はここしかない、十二日昼頃から自衛隊などの救出が本格的に始まった。ヘリコプターや特殊車両が数分おきに市内外から被災者を運び込んだ。搬送された人の多くは、ずぶぬれであるえ、話してもできない状態だった。「恐怖からかほとんどの人がぼうぜんとしていた。」仙台市立荒浜小学校の惨状と石巻赤十字病院での緊急体制の関係者の話しです。

被災地の様子  
(石巻赤十字看護学校)



## 東日本大震災復興支援視察に参加して

日赤第十四分団長 倉林正喜

11月3日(祝)紅葉の美しい阿賀町にうかがいました。西区地域コミュニティ協議会の皆様と一緒に歴史や食文化にふれるひとときをすごさせていただきました。

狐の嫁入りなどの観光と自然薯などの特産品を活かして町の活性化を図りたいという熱い思いが伝わる企画でした。西区のコミ協の方々が集い、阿賀町の新しい魅力を知る1日となりました。



## 阿賀町再発見

事務局 佐藤洋子

## 男の料理教室 「職人が教える魚のさばき方」 男のこだわり酒の肴 (パパカアップ講座 第2弾)

8月の「いのちを守る着衣泳」体験会第1弾に引き続いて、11月26日(土)「職人が教える魚のさばき方」をコミセンの調理室にて開催しました。講師は「瀧寿し」の石井さん。包丁をめったに握ったこともない参加者22名の前で、「アジ」「イカ」を見事にさばき、美しく盛り付けをさすがプロ。指導に従い見よう見まね悪戦苦闘の末、どうにか「アジのたたきとなめろう」「そしてイカのさしみと塩辛」を完成しました。その後、猪爪会長をはじめ区役所コミ協支援チームの職員を含めて楽しい交流会となりました。



## いただきます

上原団地 斎藤昭夫

有難き誘いに、昔鋭利だった包丁取出し胸押し参加。石井講師の説明手さばき見事。易しそうに見えるが本職。さばき待つ鰯とイカ。任せよと握る包丁。はなから苦戦。鰯、イカの期待に添う理と技能。感謝、喜色潜むさばき。コミ協は楽しさと期待繋ぐ。鰯、イカは家族への夢繋ぐ。いい集まりでした。



### 西地区コミュニティ協議会連合会 24 年度予算要望の主な回答（西内野地区）

| No. | 要 望 事 項  | 主 な 回 答  |
|-----|--|--|
| 1   | 都市計画道路の早期完成<br>(1)曾和・上新町線<br>①新中浜2丁目から国道 402 号まで<br>②国道 116 号から県道新潟寺泊線まで<br><br>(2)坂井・上新町線 | (1)の①については、一部の地権者の合意が得られない状況であったが、ようやく話し合いのテーブルに着くこととなった。今後も粘り強く話しをしていく。<br>(1)の②、(2)については、昨年開通した 402 号新潟海岸バイパスや(1)の①の道路が開通したあとの状況をみながら検討していく。         |
| 2   | 海岸保全区域内の人工リーフ等の整備  | 内野浜は平成 21 年度から事業が始まっており、23 年度は当初予算で 7,000 万円ついている。引き続き事業を行っていくこととなっている。<br>四ツ郷屋浜については、昨年皆さんと県に要望し、今年度に調査を始めるということであるが、今後も県の取り組み、動向を注視しながら県・国に話していく。    |
| 3   | 県道新潟寺泊線の道路拡幅<br>県道新潟寺泊線と国道 116 号のアクセス道の新設  | 昨年開通した 402 号新潟海岸バイパスや内野上新町地内の曾和・上新町線の整備後の交通状況をみながら、全体の道路について検討していく。  |
| 4   | 都市下水路の改修（五十嵐中島地内）  | この地区は今年度末に汚水整備が完了するので、この下水路は雨水のみが流れることになる。<br>今年度は現地測量を行い、施設のあり方や排水先などについて検討を進めていく。  |
| 5   | 行政サービスセンターの設置（西内野）   | 西内野地区の現況は認識しているが、土日夜間サービスを行う古町行政サービスコーナーの設置や、電子申請手続きによる行政サービスの実施を踏まえると行政サービスセンターの設置は難しい。ただ、コミ協の活動拠点ということで「まちづくりセンター」を作っていく中で、行政サービスの一部ができるかどうか検討材料である。 |



## 市歩道除雪奨励金交付モデル事業参加

新中浜町内会長 倉林正喜

### 自治会除雪の助成制度

市では、国、県、市が除雪を計画している道路以外の市道、農道、私道を自治会や町内会が除雪業者に依頼し、除雪・排出作業費用を支払った場合、助成として、市から報償費が交付されます。

#### 交付額

| ◎市道除雪                      | ◎私道除雪                      |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 回目 基準額の $\frac{2}{3}$ の額 | 1 回目 基準額の $\frac{1}{2}$ の額 |
| 2 回目 基準額の $\frac{3}{4}$ の額 | 2 回目 基準額の $\frac{3}{4}$ の額 |
| 3 回目 基準額の $\frac{4}{4}$ の額 |                            |

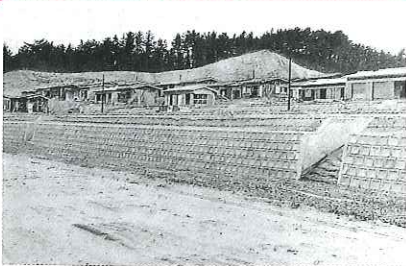
新中浜町内会では市歩道除雪奨励金交付モデル事業の申請を行ったところ、実施要領と資料提出が求められた結果、団体登録通知の決定書が届きました。その後小型除雪機の貸与も決定し、ボランティア(十四名)の運転操作研修会が開催され、八名が受講し個人の許可書が交付されました。現在小型除雪機を使用しての除雪に大活躍です。その他の人はスコップによる作業を行っています。



### 自治会紹介

## 内野平和台自治会

昭和三十九年の新潟大地震で、被災をされた人々のため、当時の福対協が、砂丘地とその下の田畑、約三万八千坪を買収し、造成した団地です。第一次の入居は、昭和四十年六月で、当時は第一団地と称し、市内で一番標高の高い砂丘でした。造成で生じた砂を利用し、第二団地を造成し、順次大きな団地として造形されました。さて、この自治会は昭和四十年七月二十五日に創立され、今年で四十七年目を迎えることとなります。



最初の建築 西坂道通りの西側

はやいものです。「平和台のあゆみ」を読んでみますと、水道、ガス、道路舗装、都市下水道、幾多の難題を役員を中心に住民一体となり解決し住みよい自治会にしたいだけたのも先輩方々のおかげと思っております。

### 市有功表彰を受賞して すべての人に感謝



内野西新町自治会長  
小林 勇

平成二十三年度市有功表彰に際し、はからずも受章の栄に浴することができましたのは、ひとえに皆様の長年にわたるご支援の賜と感謝しております。僭越ながら受章について報告します。昨年七月ころに、市の係官がきて受章のことで経歴など調査されました。

平成二十三年度の市表彰式は十一月二十三日午後三時からホテルイタリア軒三階「サンマルコ」で開催され、被表彰者は、市会議員一、農業委員四、市芸術文化関係六、産業振興関係三、公共施設関係一、地域振興功労自治会長五でありました。今後はこの榮譽に恥じることのないよう日々を送って参ります。今後とも変わらぬご芳情賜りますようお願い申し上げます。

現在、五〇五世帯。ここに居を構えること、平均四十年、高齢化が進むなか、自治会の行事、明寿会（老人会）の行事、民生児童委員の協力を通して、互励の高揚を目指している自治会です。

自治会長 大湊 武士

### 第90回全国高等学校 選手権大会

新潟県代表 新潟西高等学校  
顧問 大戸 大

全国サッカー選手権大会出場に際し、地域の皆様から多くのご支援とご声援いただき、誠にありがとうございます。私も成海監督も内野の出身で、ともに母校である新潟西高校が活躍することが、地域の活性化や盛り上がりにつながってくればと願いながら日々の教育活動に励んでいます。西内野小学校時代、暗くなるまでサッカーボールを追いかけグラウンドを走り回っていたことを覚えています。私にとつて一つのことに熱中できたことが人生の大きな財産となっています。地域の後輩のみなさんにも、どうか夢や希望を持ち続けて前進してほしいものです。いつか必ず現実となる日が来るはずで



### 事務局から

このコミュニティ協議会も活動をはじめた六年、事業活動も皆さんのご協力を得て、多岐にわたり活発化してまいりました。ありがとうございます。

さて、二十四年度には、次のような事業を計画しました。多数の、ご参加を頂き、コミュニティの輪を広げませんか。

- わい愛クッキング 六月
- 盆おどり大会 七月
- 夜間防犯パトロール 九月
- 防火・防災訓練 十月
- 高齢者対象の日帰り慰安旅行 十月
- 親子もちつき大会 十二月
- ニゴニコヘルスアップ事業 年二回
- コミ協だより 年二回発行
- こぼとの会 月四回
- 西区との連携事業 随時

（講習会・講演会等）  
こんな事業を実施してほしいなどのご意見、要望がありましたらお聞かせください。

### 編集後記

大雪となった今年の冬、除雪など地域の支え合いはかががたつたでしょう。

東日本大震災、原発事故から早一年が経過しました、風化させることなく本当の豊かさを次世代につなぐためにも、生活スタイルなどの見直し、助け合える支え合える地域づくりの構築が求められています。（H・K）